

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1階)

事業所番号	2792400166		
法人名	社会福祉法人 松樹会		
事業所名	たんぼぼ田口		
所在地	枚方市交北2-8-10		
自己評価作成日	平成28年8月10日	評価結果市町村受理日	平成28年12月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成28年9月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成28年10月で開設5年となります。母体は枚方市長尾にある中村病院で、系列である中村記念クリニックから月2回の訪問診療があります。週に1度の訪問看護の他、集団リハビリの為に週3回、看護師の訪問があります。又、隣接の特養にも看護師が配置されており、医療連携が密に図れ、急変時に対応できる環境が整っています。
職員の半数以上が介護福祉士で、その知識が活かせる様、毎月の勉強会を行なっています。丁寧な対応と目配り気配り心配りで、入居者様に楽しく生活して頂ける様、支援にあたっています。日常生活では、敷地内に小さいスペースではありますが畑があり、収穫の楽しみや、旬の野菜を食べる楽しさを提供しています。近くには、神社や公園があり、散歩するのに良い環境にあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業主体は、社会福祉法人松樹会である。ホームは、平成23年10月に、2階建ての、1~2階部分に2ユニットで開設した。隣接して特別養護老人ホームが在る。ホームの周囲は、田畑に囲まれ、田圃には黄金色の稲の実り、畑には野菜や果実や花が咲き、建物の庭には植木木の緑が繁り、利用者は四季折々の季節を楽しみながらの暮らしと、閑静な良き環境が在る。ホームでは、母体の医療法人や隣接の特養からの定期的な医師、看護師の派遣で日常的に利用者の健康管理を行い、安心・安寧な健康寿命が確保されている。ケアの重点を認知症に対する理解・知識・技術に置き、常に認知症ケア研修を行ない、職員のスキルアップに取り組んでいる。モットーを「家庭的な暮らしの中で、ふれ合いと自分らしさを大切に、みんなの笑顔が溢れる居場所を作ります」とした、実践の取り組みがある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昼のミーティング時に、理念の唱和を行ない、共有して実践に繋げている。	法人理念を基本とし、全職員で創り上げたモットーを「家庭的な暮らしの中で、ふれ合いと自分らしさを大切に、みんなの笑顔が溢れる居場所を作ります」として、ホーム内に理念を掲示し、昼のミーティング時に唱和して、理念を全職員で共有して実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所が地域にある施設として、相互に活かされる様、民生委員や校区福祉委員と交流や情報交換を図るようにしている。近くの神社への散歩や地域での催しにも参加している。	地域で開催される各種の催事に積極的に参加している。近隣散歩時での人々との挨拶・会話、神社のお祭り、いきいきサロン、区民運動会、紫陽花祭り、小学生の体験学習、隣接の特養施設を開放しての地域の人々との交流等密なる交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域にある社会資源として活かされる様、認知症の講習会などを行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	包括支援センター職員、社協職員を始め、民生委員、校区福祉委員など地域の方にも参加頂き事業所での取り組みを報告し、意見を頂き、サービスの向上に活かせるようにしている。	平成27年度は、年6回開催して、延べ39名の参加があった。参加者は、利用者、地域包括支援センター職員、社会福祉協議会、民生委員、福祉委員、デイサービス相談員、管理者、計画作成担当者、職員等の参加で、双方向的な会議を実施している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市職員とは必要時には連絡を取っている。包括支援センター職員とは、運営推進会議やグループホーム交流会などを通じて、協力関係が築けている。介護相談員の受入れもしている。	日頃から、市の担当者とは、相談・情報交換・指導を受けながら協力関係を築いている。毎月1名の介護相談員の受け入れを行い、利用者の各種の話を聞き、相談に応じている。運営推進会議時には、地域包括支援センター職員とケア情報を交換して連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は行なっており、開放を意識しているが十分な開放には至っていない。身体拘束については、マニュアルの整備や研修、日々の指導なども行ない、拘束のないケアを行なっている。	職員は身体拘束をすることの弊害を理解している。身体拘束ゼロのマニュアルを作り、定期的に職員研修を行ない、身体拘束ゼロを目指したケアに取り組んでいる。玄関は道路に面しているので施錠をしているが、利用者の出入りには即応体制と見守りを重視している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についてのマニュアルの整備や研修などを行ない、虐待が見過ごされる事のない様、入浴時などの皮膚の観察にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々の必要性に応じて、活用できるための支援を行なっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居や改定の際には、ご家族様への説明と同意を頂いている。 不安や疑問点も丁寧に説明するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、介護相談員の受入れを行っている。 面会時にはコミュニケーションを図り、意見・要望を表しやすい関係作りに努めている。頂いた要望などは書面に残し、反映できるようにしている。	苦情相談窓口を設置し、担当者による意見・苦情・不安への対応をしている。2ヶ月に1回は「たんぼぼ新聞」を発行し、毎月には、管理者と職員が各利用者の日常生活を「お手紙」として報告している。家族の訪問時にも意見・提案等を傾聴して運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議・フロア会議・職員面談などで意見を聞く機会を設けている。 日常的にも話を聞く様にしている。	毎月スタッフ及びフロア会議を開催し、昼の時間のミーティング等も行い、職員の様々な意見・提案等を聞く機会を設けている。職員自己評価表があり、職員は年間の自己目標を設定し、年2回の役職者との三者面談で話し合い、動機づけ・スキルアップ考慮し、意思疎通を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を導入し、向上心を持って働ける様努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々のスキルや経験に応じた研修を受ける機会を設け、スキルアップへの支援を行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム交流会や、法人内での各事業所との交流の機会を設け、サービス向上できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談や困りごとを傾聴する事で、安心を確保できる様、ご本人様と向き合いながら、信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談や聞き取りなどで、ご家族様の困りごとを伺い、安心して頂ける関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様ご家族様、又関係各所からの事前の聞き取りで、その時に必要としているサービスや必要と予測される支援を見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と入居者様が共に過ごし、共に学び、支え合える関係を築ける様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とは情報を共有できるよう、面会時や電話などで連絡を入れる様にしている。行事への参加も呼びかけ、共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や行事参加への呼びかけを行なっている。 入居時入居後のご家族様への聞き取りによる、これまでの生活環境の把握にて、大切な関係への支援に努めている。	利用者の生活歴や家族からの情報を収集して、親しい友人、知人、親戚、ボランティアの人々の訪問等や馴染みの近隣の散歩、神社へのお参り、スーパーでの買い物、家族との外食等の支援をし、従来の生活の継続性を確保した支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様間との関係の理解に努め、孤立されことなく、共に楽しく暮らして頂ける様、支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様に対しての、レスパイトケア、グリーフケアに努めている。 退居後の経過をサポートできるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期以外でも適時、カンファレンスを行なっている。 又、職員間でも良く話し合いを行なっており、希望や意向を把握できる様努めている。	アセスメントシート、日々の関わり、利用者の日頃の言動、家族からの情報等を収集して、利用者の暮らし方の希望・意向を把握している。把握しづらい面については、家族との意思疎通を図り、利用者の自己決定を促がす対応をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にはご家族様から、詳細なアセスメントを行ない、一人ひとりの生活リズムを把握し、自分らしい生活を過ごせる様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の現在有する力を、把握・発見に努め、職員間で情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様や関係各所と話し合いや、意見交換などを行ない、介護計画に反映させるようにしている。	本人・家族・関係職員等から収集した情報や、アセスメントシートや支援記録等を基に介護計画書を作成する。見直しは、各職員が毎日作成する介護記録(カルテ)を基に、モニタリング表で評価をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を取り、職員間で共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症の進行、ADLの低下など、その時の状況に応じた対応をしている。 また、家族様の状況の変化に応じて、施設としても出来る限りのサービスに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや社協のいきいきマイレージの方に来て頂いている。 又、公園や神社などに出掛け、施設内だけでなく、地域の場を活用し、楽しんでもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様ご家族様の意向の下、かかりつけ医と連携を図っている。 ご家族様にも適時、報告相談を行なっている。	母体が病院であるが、あくまでも、本人及び家族の希望を尊重して、従来のかかりつけ医の継続を実施している。事業所の協力医療機関での受診を希望する場合には、本人及び家族の納得と同意を得て、事業所の協力医療機関での受診ができるように対応をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、体調管理の為に訪問看護師の巡回に加え、別に週3回、リハビリ目的で看護師の訪問がある。 都度、気になる所を報告相談し、指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際にはしっかりと情報提供を行ない、安全・適切に治療が受けられるようにしている。 また、相談員と緊密な連携を図ることで、状況を把握し、早期退院などに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、聞き取れる範囲で情報収集に努めている。又、入居者様の状態に応じて、ご家族様と主治医との話し合いの場も持てる様、努めている。	「看取りに関する考え方及び重度化した場合における対応に係わる指針」があり、契約時に、本人、家族への説明が行われている。母体病院の医師、看護師との24時間連絡・相談可能な医療連携体制を整え、可能な限り施設での生活が継続できる様な体制がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急搬送に関わった職員のみならず、他職員も自分もいつか対応しなければならないと思い、フォローしながら経験を積んでいくようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に備え、マニュアルも整備し、備蓄食も備えている。年2回、避難訓練も行なっている。 また、日頃からイメージしたり、各自、物品や119番対応など、確認するよう声掛けをしている。	年2回の消防・避難訓練は確実に実施している。災害対策マニュアルや緊急連絡網も作成し、防災の研修も実施している。地域の自主防災訓練にも参加している。スプリンクラーを設置して安全を確保し、備蓄も準備している。緊急時夜間待機職員の配置もある。	今後は、緊急災害時の近隣住民の協力体制を構築する事が求められる。特に、深夜に於ける、地震・火災・水害時の地域住民の方々との協力体制を、運営推進会議会員や消防署等に要請して指導を受ける事が要望される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	グループホームとしての密接な関係や介助に於いて、全ての入居者様の人格の尊重とプライバシーを守るように努めている。	基本理念の「利用者様の人間性や尊厳を尊重し、個々の願いに応じたサービスや環境を提供します」を唱和し、接遇マニュアルを作成し、職員が対人援助サービスの知識と技術を身につけるよう取り組み、利用者の尊厳やプライドを損ねない対応の徹底を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の方との声掛けや話を密にして、ご本人が希望や自己決定をしやすい様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り、入居者様の生活ペースに沿う様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容介助や、その日の洋服選びなど身だしなみやおしゃれへの支援を行なっている。月に1度、希望の方には、訪問理美容を利用して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に、オヤツ作りや軽食作りを手伝って頂くよう支援している。 収穫した野菜で作った食事も提供し、食を楽しんで頂ける様、努めている。	食事は、隣接の特養ホームの厨房で、管理栄養士の下で調理した食事が提供される。検食簿による毎食の味付け、分量、残量等も検討して、安全な楽しい食事提供がある。定期的に給食委員会を開き、嗜好調査もしている。ホームの菜園の野菜も食卓に上る。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を把握し、必要量の確保に努めている。 確保が困難な場合でも、その方に応じて食べ易い形態を工夫し、提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様の個々の状態に応じながら、口腔内の清潔保持に努めている。 毎食後の歯磨きや就寝前の義歯の消毒なども行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し、個々の排泄パターンに応じた声掛けなどを行ない、気持ちよく排泄できるための支援を行なっている。	排泄表に時系列に記録された排泄記録を基に、個人別排泄パターンを把握して、トイレ誘導を促がしている。(個人の習慣等も考慮して)、あくまでも、利用者の自立を目指した排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中、体操など身体を動かして頂き、便秘になりにくい環境を作っている。 又、水分量の確保や乳酸菌飲料の提供で、自然排便が出来るよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の際は、入居者様の羞恥心などを配慮し、個々の希望や状態に応じた入浴を、楽しんで頂ける様、支援している。	入浴は、利用者の体調や希望に柔軟に対応している。清潔な個浴槽は左右に移動が可能で、3方向介助が可能な造りで、安全を確保している。柚子湯、菖蒲湯や音楽を聞きながらの入浴、話し合い等での、楽しみながらの入浴の工夫がある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりが休息したり、安心して気持ちよく眠れる様、声掛けを行ったり、前日の睡眠の状態を把握し、状況に応じた対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	最新の薬情(薬の説明書)を個人のカルテに挟み、すぐに目を通せるようにしている。 服薬の支援や状態の変化の確認は、薬剤師とも連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事手伝いやレクリエーションなどで、役割と楽しみのある日々を過ごせる様支援している。 静かに新聞や本を読んだりする事が好きな方は、その環境を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、希望に応じて散歩をしたり、畑に野菜を採りに行ったりしている。 年間の外出行事など、ご家族様の協力も得ながら、季節感を楽しんで頂いている。	利用者の体調や心身状況を考慮して、近隣の散歩、神社のお参り、公園の散歩時の地域の人々との挨拶・会話を楽しむ、お花見、買い物、家族の協力での外食の楽しみ、ホームの菜園での野菜づくりでの外気浴、日光浴等利用者が季節を感じ、地域の人々とふれ合いを楽しむ支援がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望によりご自身でお金を所持している方と、預り金という形で施設管理の上、ご本人が買いたい物を職員と一緒に掛けて、買い物を楽しんだりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望や有する力に応じて、電話を掛けること等、支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	集団生活で混乱せず、気持ちよく生活して頂ける様、トイレの場所が分かりやすいポスターを掲示したり、季節を感じる飾りつけなどを工夫している。	玄関は透明ガラスの採光で明るく清潔感がある。ゆったりと話ができるふれあい合いコーナーは、心が和む。食堂兼リビングは、清潔で、明るく、一隅には畳の寛げる空間がある。壁には書や季節感のある色紙細工が飾られている。廊下の一画にソファとリハビリ用自転車を置き居住領域の有効活用も在る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	人の気配が感じられる空間の中で、一人になれる、ちょっとしたスペースや複数で過ごせるテーブル席など、配慮・工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	プライバシーを大切にしながら、安心して過ごせる環境作りや、馴染みの物など、家族様とも相談を行ない、落ち着いて過ごせる工夫を行なっている。	居室には馴染みの物が持ち込まれている。家族の写真、テレビ、時計等が在る。各居室には、車椅子の座面に合わせた高さで調節された洗面所を設置して、利用者の配慮をしている。ナースコール、スプリンクラーも設置し、安心・安全を確保した環境が在る。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体機能や、認知症の状態に合わせて、危険防止や自身の力を活かして動ける事を支えるための個別の環境をしっかりと検討し、工夫を行なっている。		